

実用段階への検討へ

入鹿山
教授

水銀の無機化で協議

入鹿山熊大医学部衛生学教授は二十六日午後一時チツソ水俣支社を訪れ、島崎同工場技術部長、吉川企画推進室長らとこれまでの研究結果などを協議した。

この日の焦点はチツソが同教授に研究を依頼していた有機水銀を無機水銀に変える方法の研究結果

報告で、同教授はすでに試験管による実験に成功しており、研究成果の過程を説明した。

現在同工場内には水俣病の原因になったアセトアルデヒドの母液を保管したタンク七つ、合わせて百二十トンを置いており、同液の処置が問題になっているが、有機水

銀を人体に影響のない無機に化学変化させることが一応実験によって成功したことは、今後問題のタンク処理に一つの解決の糸口が出たわけで、近く改めて実際にタンク内の有機水銀を無機に変化させる技術過程など本格的な検討に取りかかる予定。